



2019年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年7月5日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9414 URL <https://www.bs11.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 兼 CEO (氏名) 齋藤 知久
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 平山 直樹 (TEL) 03 (3518) 1900
 経営戦略局担当
 四半期報告書提出予定日 2019年7月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年8月期第3四半期の連結業績(2018年9月1日~2019年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年8月期第3四半期	9,187	△0.1	1,333	△35.4	1,334	△35.3	905	△35.4
2018年8月期第3四半期	9,195	—	2,064	—	2,062	—	1,400	—

(注) 包括利益 2019年8月期第3四半期 905百万円(△35.4%) 2018年8月期第3四半期 1,400百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年8月期第3四半期	50.86	50.84
2018年8月期第3四半期	78.69	78.68

(注) 当社は、2018年8月期第2四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2018年8月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年8月期第3四半期	19,193	17,412	90.7
2018年8月期	19,208	16,839	87.6

(参考) 自己資本 2019年8月期第3四半期 17,403百万円 2018年8月期 16,834百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年8月期	—	0.00	—	19.00	19.00
2019年8月期	—	0.00	—		
2019年8月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年8月期の連結業績予想(2018年9月1日~2019年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,000	12.1	2,005	△17.4	2,005	△17.3	1,400	△15.6	78.64

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 1株当たり当期純利益は、2019年8月期第1四半期のストック・オプション行使分(1,200株)と所有している自己株式数を勘案した期中平均株式数を基に修正しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年8月期3Q	17,804,032株	2018年8月期	17,802,832株
② 期末自己株式数	2019年8月期3Q	137株	2018年8月期	134株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2019年8月期3Q	17,803,544株	2018年8月期3Q	17,802,698株

(注) 1. 第1四半期連結会計期間において、ストック・オプションの権利行使により期末発行済株式数が1,200株増加しております。

2. 期末自己株式数の増加は、単元未満株式の買取によるものであります。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(日付の表示方法の変更)

2019年8月期第1四半期連結会計期間より、日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、輸出や生産の一部に弱さが続いているものの、雇用・所得環境の改善が続くなか、各種政策の効果もあり、景気は緩やかな回復基調となりました。しかしながら、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、中国経済の先行き、海外経済の動向と施策に関する不確実性等により依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の割合は全世帯の73.9%（「BS世帯普及率調査」(株)ビデオリサーチ調べ）で推移しており、またBSデジタル放送事業を含む衛星放送メディア分野の広告費は前年比で98.1%と減少、BS放送の広告費においては、前年比で99.7%とほぼ横ばいで推移しております（「2018年日本の広告費」(株)電通調べ）。さらにテレビ通販業界を中心とした各企業では、広告媒体の多様化が進み、引き続き厳しい環境が続いております。

このような状況下、当社は「質の高い情報を提供することで人々に感動を与え、幸せな社会づくりに貢献します」を経営理念として、「豊かで癒される教養・娯楽番組と中立公正な報道・情報番組を発信し『価値ある時間』を約束します」との経営ビジョンに基づき、良質な番組制作に引き続き邁進いたしました。

2018年10月の番組改編では、良質な番組制作による視聴世帯数の更なる増加を目的として、歴史の定説や通説に現代科学のメスを入れ歴史の新事実を掘り起こす『歴史科学捜査班』、フランス人の美術史家ソフィー・リチャードさんのベストセラー書籍から日本の美術館の価値を発見していく美術館探索ドキュメンタリー『フランス人がときめいた日本の美術館』等の放送を開始いたしました。

2019年4月の番組改編では、「見たい番組が、ここにある。」をコンセプトに、番組コンテンツを最も見やすい時間帯に配置することで、各コンテンツの魅力を最大限発揮できるよう編成。新番組では、人気歌手である八代亜紀さんが歌謡番組としては初の司会を務め、豪華ゲストと共に楽しいトークと素敵な歌をお届けする『八代亜紀 いい歌いい話』の放送を開始。『Anison Days』や『世界の国境を歩いてみたら・・・』等の人気番組については内容を更に充実させ放送いたしました。

また、特別番組として、人生の先輩たちの言葉・エピソードから生きるヒントや人生の知恵を学ぶ『尾上松也の泣いて！笑って！元気になる言葉』、人気声優が様々なエンターテインメントで溢れる新宿を旅する『まちめぐ！～仲良し声優が巡る新宿さんぽ～』を放送したほか、テレビ和歌山と『世界遺産15周年！おいでよ和歌山』、KBS京都と『京都夜桜生中継2019 春らんまん、桜舞う名画の舞台へ』、全国各地のローカル局10社と『桜前線2019 絶景花見スポット 全国キャスターリレー！』を共同製作で放送、ローカル局とのコラボレーション施策も積極的に実施いたしました。

さらに、アニメファンから根強い人気を誇る『ANIME+』において、製作委員会へ出資した『賢者の孫』、『世話やきキツネの仙狐さん』、『僕たちは勉強ができない』、『Fairy gone』等を放送したほか、約40タイトルのアニメ番組を放送いたしました。

このほか、当期の施策として人気アニソン番組『Anison Days』では文化放送とコラボレーションしたラジオ番組『Anison Days+（プラス）』を昨年10月より文化放送で開始、また本年5月には番組初となる単独ライブ『Live 「Anison Days」 Day1』を実施したほか、昨年11月にはeスポーツ文化発展の支援を目的とした『BS11cup 全日本eスポーツ学生選手権大会2018』を当社主催で実施し放送、本年5月にはJR九州主催の「第4回九州魅力発掘大賞」の映像部門賞を昨年4月放送の『大分国東半島 六郷満山1300年』が受賞いたしました。

上記のとおり、レギュラー番組の更なる内容充実・向上と、これまでにない新しい施策を含んだ特別番組やイベントに対する制作費を集中的に投資しながら、厳選した海外ドラマや映画等の人気番組も積極的に購入したことにより、番組関連費用は増加いたしました。また、番組宣伝や局認知向上施策として、全国紙・WEBを中心とした広告出稿を戦略的に実施したほか、屋外広告掲出やローカル局でのテレビCMなど、様々な媒体を活用した広告宣伝施策を積極的に実施いたしました。また、営業面では広告媒体多様化による業界環境変化の影響等を大きく受け、減収減益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は9,187,624千円（前年同期比0.1%減少）となりました。営業利益は1,333,932千円（前年同期比35.4%減少）、経常利益は1,334,666千円（前年同期比35.3%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は905,463千円（前年同期比35.4%減少）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ15,192千円減少し、19,193,463千円(前連結会計年度末比0.1%減少)となりました。主な要因は、現金及び預金が168,950千円増加したものの、受取手形及び売掛金が140,373千円、有形固定資産合計が97,393千円それぞれ減少したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ587,871千円減少し、1,780,849千円(前連結会計年度末比24.8%減少)となりました。主な要因は、未払法人税等が415,863千円減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ572,678千円増加し、17,412,614千円(前連結会計年度末比3.4%増加)となりました。主な要因は、利益剰余金が、前連結会計年度の期末配当338,251千円により減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益905,463千円の計上に伴い利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年8月期の業績予想につきましては、2018年10月5日付の「平成30年8月期 決算短信」で公表しました業績予想から変更ありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,604,440	9,773,390
受取手形及び売掛金	2,190,656	2,050,282
たな卸資産	269,609	346,270
その他	51,141	50,540
貸倒引当金	△1,530	△1,430
流動資産合計	12,114,317	12,219,053
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,407,197	2,341,984
土地	4,034,756	4,034,756
その他(純額)	264,579	232,398
有形固定資産合計	6,706,533	6,609,140
無形固定資産	17,812	15,941
投資その他の資産	369,992	349,328
固定資産合計	7,094,338	6,974,410
資産合計	19,208,656	19,193,463
負債の部		
流動負債		
買掛金	501,975	533,794
短期借入金	480,000	530,000
1年内返済予定の長期借入金	11,100	11,100
未払法人税等	443,639	27,775
返品調整引当金	37,890	27,187
その他	791,084	549,831
流動負債合計	2,265,688	1,679,689
固定負債		
長期借入金	13,000	5,600
退職給付に係る負債	66,150	74,022
その他	23,881	21,537
固定負債合計	103,031	101,159
負債合計	2,368,720	1,780,849

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,183,198	4,183,936
資本剰余金	3,516,989	3,517,726
利益剰余金	9,134,730	9,701,941
自己株式	△139	△143
株主資本合計	16,834,778	17,403,461
新株予約権	5,157	9,153
純資産合計	16,839,936	17,412,614
負債純資産合計	19,208,656	19,193,463

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年9月1日 至2018年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年5月31日)
売上高	9,195,067	9,187,624
売上原価	4,236,836	4,759,464
売上総利益	4,958,231	4,428,159
販売費及び一般管理費	2,894,098	3,094,227
営業利益	2,064,133	1,333,932
営業外収益		
受取利息	40	47
その他	2,572	5,066
営業外収益合計	2,613	5,114
営業外費用		
支払利息	1,334	4,315
その他	3,123	65
営業外費用合計	4,457	4,380
経常利益	2,062,289	1,334,666
税金等調整前四半期純利益	2,062,289	1,334,666
法人税、住民税及び事業税	647,515	398,532
法人税等調整額	13,882	30,670
法人税等合計	661,398	429,203
四半期純利益	1,400,890	905,463
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,400,890	905,463

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年9月1日 至2018年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年5月31日)
四半期純利益	1,400,890	905,463
四半期包括利益	1,400,890	905,463
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,400,890	905,463
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。